

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立玉川小学校

令和 7 年 4 月

(様式 1)

大阪市立玉川小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【児童の生活面での様子から】

全国学力・学習状況調査時の児童質問紙から、家庭での携帯やスマート等の約束事を守り、過度なゲーム等使用頻度も少ない様子である。家庭学習(塾や習い事を含む)の時間も比較的に多い傾向にあるが、反面、朝食の喫食率は全国を下回り、規則正しい睡眠の習慣は見られず生活面での二極化傾向が顕著である。

「自分にはよいところがある」と回答する児童は多くみられるが、その一方で難しいことに挑戦しようとする気持ちは下降気味であることから、困難なことにも進んで挑むような取り組みを進め、大きな達成感につながるよう工夫が必要である。

学力偏重の傾向が、児童間の関係性や他者を思いやるという心情に影響が見られ、トラブルがあった時は話し合いより仕返しというようなケースが見受けられる。

学校で友だちとの人間関係から学校に足が向きにくくなっている児童や、地域とのつながりが持てずに家庭で孤立している児童も少なからず見受けられることから、児童の内面をよりよく見つめ、より適切で良好な人間関係づくりが喫緊の課題となっている。

【児童の学力・体力面での様子から】

学力については、家庭や地域の教育力の恩恵を受け、全国学力・学習状況調査の全国平均、大阪市小学校学力経年調査の大都市平均とも平均正答率は上回っている。しかし、全般的には二極化が見られ、基礎的・基本的な学力の向上を図ることが課題である。

全国学力・学習状況調査の結果をもとに、基礎的・基本的な学力の底上げを学校全体に向けて図るべく当面の方向性として、①国語科では、「学校力UPベース事業」(習熟度別少人数学習)の活用や道徳科での「考え・議論する授業づくりを工夫しながら「話す・聞く能力」を高めるための手立てを工夫する。②算数科では、いずれの領域においても一見バランスが良いと見受けられるが、大阪市学力経年調査結果の状況から、「数と計算」や「数学的な考え方」等に二極化が見受けられる。日々の授業づくりや習熟度別少人数指導などによるきめ細かい継続的な指導を工夫する。以上の二点を核に据えながら、各教科学習において改善及び工夫が必要である。

一方、学習者用端末を活用した家庭学習の課題提示方法の工夫をはじめ、学年や学校全体を見通した系統的学習指導計画の整備等を進めるとともに、「主体的・対話的で深い学びの推進」に向けた組織的な指導体制の改善を図ることも大きな課題となっている。

体力面について全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果より、男女とも「瞬発力」や「敏捷性」、「柔軟性」、「持久力」にある一定の体力指数が見られる。地域人材が運営するキックベースボール部やソフトボール部に所属し、精一杯取り組む児童がいる反面、1週間の総運動時間が少ない児童が全体の5%もいることから、遊びや運動の日常化を図る必要がある。

【児童を取り巻く教育環境の様子から】

本務教員が 24 名という学校組織体制であるが、その中でも経験年数が浅く、幅広い知識をこれから蓄えていく若手教員等が 14 名という現状である。一人一人は大変誠実であるため、日々の教材研究や授業づくりには熱意が見られる。

一方で、経験の浅さから児童一人一人の様子をうまく受け止められなかつたり、寄り添つた指導が難しかつたりすることも見受けられ、保護者からも時々指摘を受けることがある。授業づくりを向上させたり、一人一人の児童をより適切に受け止めたりして、ベテランによる指導助言の機会を増やすとともに、大阪市の教育を支えるためにも、玉川小に在任する数年の間に、ベテラン教諭から授業技術の伝承が必要不可欠である。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 児童アンケートにおける「学校に来るのが楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。
- 児童アンケートにおける「学校生活のルールやマナーを守っている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。
- 児童アンケートにおける「地震や火災などの緊急事態が発生した時に避難の仕方や命の守り方を知っている」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。
- 児童アンケートにおける「道徳の時間には、よく考えたり話し合ったりしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。
- 保護者アンケートにおける「学校は互いの違いを認め合う学校・学級づくりに取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答の割合を 85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 保護者アンケートにおいて「学校は小学校生活への移行がスムーズに行える環境づくりを進めているか」の項目について、肯定的な回答を 85%以上にする。
- 児童アンケートにおいて「勉強したことがよくわかる」という項目において、最も肯定的な「思う」と回答する児童を 50%以上にする。
- 保護者アンケートにおいて「学校は子どもをよく理解し、一人一人に応じた指導をしている」の項目について、肯定的な回答を 85%以上にする。
- 児童アンケートにおける「外国語活動を通して、英語学習を楽しんでいる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。
- 児童アンケートにおける「週 1 回のチャレンジタイムで復習することができている」の項目について、肯定的な回答を 85%～90%にする。
- 保護者アンケートにおける「学校は健康づくり・体力づくりに積極的に取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答を 80%以上にする。
- 児童アンケートにおける「朝ご飯は毎日食べている」の項目について喫食率を 90 %以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 児童アンケートにおける「デジタルドリルを使った学習で自分の苦手なことにチャレンジすることができている」の項目において、「できている」と回答する児童の割合を 75 %以上にする。

- 児童アンケートにおける「読書が好きである」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合を 85%以上にする。
- 保護者アンケート「学校は、参観・防災訓練など家庭・地域との関りを通じて学校づくりに努めている」の項目について、肯定的な回答を 90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ③ 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。
- ④ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。
- ③ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 0.05 ポイント向上させる。
- ④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。
- ⑤ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1週間の総運動時間」が 60 分未満の児童の割合を 8%以下にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕
- ② 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 75%以上にする。
- ③ 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除く）」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を 23%以下にする。
- ④ 小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に 1 回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を 85%以上にする。

(様式 2)

大阪市立玉川小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 I 安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を<u>85%</u>以上にする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を<u>85%</u>以上にする。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を<u>95%</u>以上にする。</p> <p>④ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を<u>85%</u>以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 基本的な方向 1 【安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートやスクリーニングシートを活用し、いじめの早期発見に努める。発生時には、いじめ対策委員会を中心に組織的な対応に努める。 ・日常的な教育活動や組織的な道徳教育を通じ、基本的なモラルの向上を図る。 ・いじめについて考える日の講話後に、振り返りシートを活用する。 ・児童に対して心の天気の入力・入力内容の決まりを徹底させ、教職員は児童が入力した項目をその日のうちに確認することで、児童の悩みに寄り添える環境づくりを構築する。 <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を<u>85%</u>以上にする。 	
<p>取組内容② 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはようタイムや生活班での活動を通じて、異学年交流を図り、児童が仲良く楽しむことができるようとする。 ・150周年行事に関する活動に、児童がいきいきと参加することができるようとする。 <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を<u>85%</u>以上にする。 	

取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

- ・玉川小学校「学校安心ルール」を教室に掲示して、子ども自ら律することができる力の育成を目指し、子ども同士、声を掛け合える関係作りを促す。
- ・児童会を中心にルールやマナーの啓発活動を行う。

指標

- ・小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・個や集団に応じた道徳教材や人権教育を通じて、児童が自分によさに気づくことができるようとする。
- ・児童一人ひとりを理解するために、学年間や職員で児童に関する配慮すべき点を共有し、居心地の良い学び場を作る。

指標

- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・日常的な教育活動や強調週間を通して、進んであいさつをする子どもを育てる。

指標

- ・学校教育アンケートにおける「学校は、誰に対しても進んであいさつする子どもを育てている」の項目について、最も肯定的な回答をした保護者の割合を40%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立玉川小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より 0. 1 ポイント向上させる。</p> <p>② 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より <u>5 ポイント</u> 減少させる。</p> <p>③ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を <u>6 5 %</u> 以上にする。</p> <p>⑤ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1 週間の総運動時間」が 60 分未満の児童の割合を <u>8 %</u> 以下にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 3 幼児教育の推進と質の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーチャイム期間を設けたり、保小幼の取り組みを行ったりしてスタートカリキュラムの作成を行い、幼児教育との接続を図る。 <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて「学校は小学校生活への移行がスムーズに行える環境づくりを進めているか」の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を 90% 以上にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的読解力育成カリキュラムを各学年で年間計画を立て、35 時間実施し、読む力や書く力を向上させる。 <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全市比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より 0. 2 ポイント向上させる。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週 3 回のイングリッシュタイムと英語専科や C-net の活用を通して、英語教育の推進を図る。 <p>指 標</p>	

・児童アンケートにおいて「外国語活動を通して、英語学習を楽しんでいる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 <ul style="list-style-type: none">・ダッシュタイム、玉川パークランなどの児童の体力を高める活動の充実と、健康や食育に関する強調週間を設定し、よりよい生活習慣が身につき、体力が向上するようにする。	
指標 <ul style="list-style-type: none">・③ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より1ポイント向上させる。	
取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 <ul style="list-style-type: none">・食に関する強調週間を設定し、自らの食習慣を見つめ、バランスのよい食事の生活習慣が身につくようにする。・強調週間の実施、年3回の食育授業、給食時の指導、保護者の啓発活動に取り組む。	
指標 <ul style="list-style-type: none">・学校生活アンケートにおいて「バランスのよい食事に気をつけている」の項目において肯定的な回答を75%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式 2)

大阪市立玉川小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】	
<p>① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の<u>70 %</u>以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適しない日数を除く〕</p> <p>② 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を <u>75 %</u>以上にする。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除く）」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を <u>23 %</u>以下にする。</p> <p>④ 小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に 1 回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を <u>85 %</u>以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 チャレンジタイムや家庭学習で ICT(一人一台端末)を活用し、情報処理能力や使用頻度の向上を図るとともに、教員向けの校内研修を実施し、授業でも活用できるようにする。	
指 標 児童アンケートにおける「デジタルドリルを使った学習を週 3 回以上行っている。」の項目において、「行っている。」と回答する児童の割合を 75%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】 日常的な教育活動をはじめ、授業研究会や研修会を通して授業力の向上を図る。	
指 標 校内研修会を年 3 回、授業研究会を年間 6 回実施する。	
取組内容③【基本的な方向 7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員の健康面と仕事との両立を考えた働きやすい職場環境を充実させる。	
指 標 <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。（会議のある日には設定しない） ・ゆとりの日には、定時退勤するようにする。 ・基準 1 を満たす職員の割合を 75%以上になる状態を目指す。 	

取組内容④【基本的な方向8 生涯学習の支援】

- ・読書カードをつけたり、図書館開放、読み聞かせ等をしたり、読書タイムの設定をしたりするなど、読書活動の充実を図る。
- ・学校司書との連携を図り、学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行う。

指 標

- ・児童アンケートにおける「学校やお家などで、週に30分以上の読書に取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合を85%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を85%以上にする。
- ・図書室の利用のルールを各学級で再徹底する。

取組内容⑤【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

- ・学校行事の取り組みの中で、これまでの行事を精選しながら登下校安全式、敬老の日のお手紙・防災訓練・学習参観・親子ふれあい広場・キッズマート等の活用を通して、家庭・地域との連携を図る。

指 標

- ・保護者アンケート「学校は、参観・防災訓練など家庭・地域との関りを通じて学校づくりに努めている」の項目について、肯定的な回答を90%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点